



今日の朝刊の一面の下方に本の広告が出ていた。
 本の題は「癌に向き合って」「脊柱管狭窄症は改善した」
 「ここまで来た膝関節症の治療」「健全な睡眠を取りましょう」。
 これらの疾患は、高齢者の結構多くの方が悩まされ、そして
 中々よくなるしない疾患である。

私は買ったことがないので、本の内容は知らないが推定はできる。
 本の内容を推定してみることにした。

最初に、それらの疾患の患者の統計分布、つまり、年齢別、男女別、国別などで、
 棒グラフや円グラフで表し「日本人に多く、高齢と共に多くなり、特に女性に多い
 傾向がある。」「悩んでいる人はあなただけではない。」と文が続く。

その原因は、不明だがこんな人に多い傾向がある。あなたも、色々な医療機関で
 診察してもらい、治療を試したがよくならなくて辛い毎日のことだったでしょう。

一般的にはこんな治療法で、こんな治療薬です。

その進行度 I ~ IV の症状と治療法・治療薬の表が掲載。
 数人の困った経験談が載っている。

重症度	酸素飽和度	呼吸状態	歩行のポイント
軽度	SpO ₂ > 98%	呼吸困難がなし 息が十分に吸いきれ いずの自覚がなく も呼吸器異常を認めない	歩行が困難な歩容、歩速に制限が認められる 日常生活動作も制限を受ける
中等度 (1) 歩行不能なし	95% < SpO ₂ < 98%	呼吸困難、呼吸器異常	入浴などで歩容に制限 日常生活動作も制限を受ける 歩行が困難な歩容、歩速に制限を受ける
中等度 (2) 歩行不能あり	SpO ₂ < 95%	酸素吸入が必要	歩行が困難な歩容、歩速に制限を受ける 日常生活動作も制限を受ける
重症		ICUに入院 人工呼吸器が必要	歩行が困難な歩容、歩速に制限を受ける 日常生活動作も制限を受ける 歩行が困難な歩容、歩速に制限を受ける

ここからが、本題に入る。

怪しげな漢方もどきの民間薬や、体操もどきの治療法など。

少しはマシだが、インターネットからの引用で全国の有名な医療施設や専門医の一覧表が掲載。

「病は気から」の如く考え方で楽になり、それによって
 免疫力を高める何とかというカタカナの物質が上昇する。

そこで、「飽くまでも個人の感想であるが」と付記して、

「私は、こんなに良くなった。」の文章が続く。

そして「その結果、今まで辛くて可愛い孫と遊べなかつたが、それが出来るようになり、私のこれからの人生がバラ色になった。」などの飛躍した文章が続く。

作者は医療ジャーナリスト誰の太郎兵衛、監修は何々医学博士 (医学部卒でもなく、
 医師免許もなしだが、医学博士ではある)

本の値段は、お手頃な、1,200~2,300円である。

このエッセイを読まれた方、どうか買って読んで下さい。

私の推定がどれだけ合っているかをご検証下さい。 結構面白いかも。

